

第87回イブニングセミナー

常識を超えてゆけ！

～肢体不自由児者の可能性～



【報告者】

尾崎充希(教育学部)

田村宏樹(工学部)

荒川英樹(附属病院)

【コーディネーター】

中村佳文(教育学部)

今回のセミナーでは、肢体不自由児者の教育・工学機器開発・スポーツの取り組みを支援する研究・実践に携わる報告者により、常識を超えてゆく研究内容を紹介します。すべての人に健康と福祉、そして質の高い教育を、宮崎大学の異分野融合の挑戦です。

日時:2023年5月30日(火) 17:30～19:00

場所:Zoomウェビナーで配信

定員:制限は設けておりません

申込方法:QRコードをクリックするか、コードを読み取って  
お申込みください

上記でのお申込みが困難な場合には、メールにて「中高生・学生・一般・教職員等の別、氏名」をお知らせください

宮崎大学研究推進課総務係

E-Mail : ken-somu@of.miyazaki-u.ac.jp

TEL : 0985-58-2882





開会挨拶 鮫島 浩 (学長)

## 【報告テーマ・概要】

# 「子ども一人ひとりの“やってみたい!”をひきだす 肢体不自由児教育の実現に向けて」

尾崎充希 (教育学部講師)

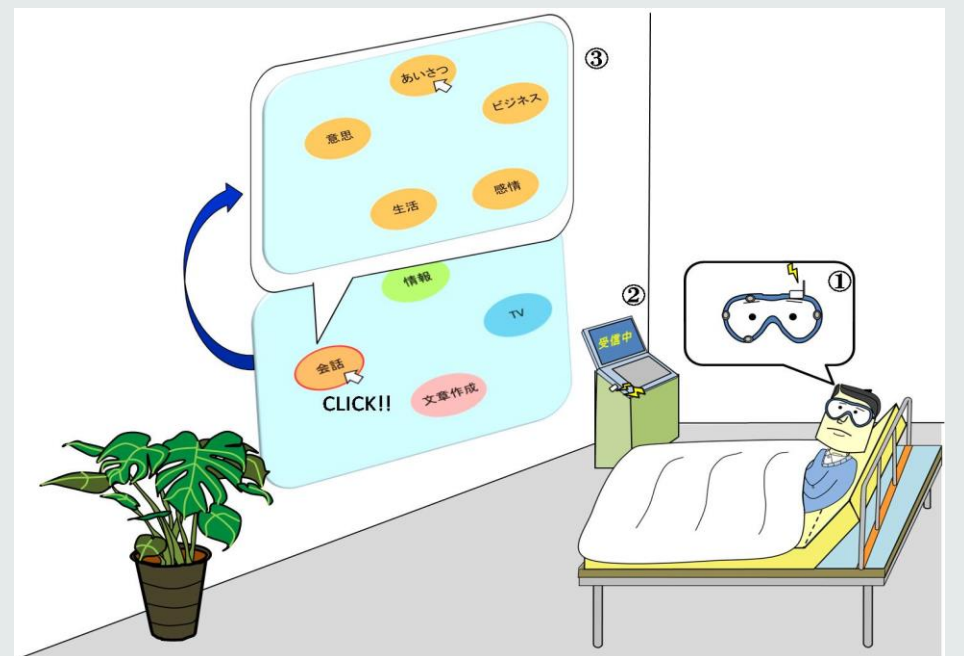
私はリハビリテーション領域の技術や知識を取り入れた肢体不自由児教育について研究しています。本セミナーでは、その中でも重症心身障害児に対する研究をご紹介します。重症心身障害児は、自分の身体を思うように動かすことが難しく、寝たきりの姿勢でいる時間が長い場合が多いです。私はそのような子どもが学校で楽しめる活動の一つでも増やそうと、揺れを用いた福祉機器(揺動ベッド)の効果検証に取り組んでいます。また、タイの一部地域において、子ども一人ひとりの身体にあった椅子を作り、提供する取り組みに携わっています。最後に、宮崎県で行われている肢体不自由者のための余暇活動支援についてご紹介します。

## 「視線入力装置を用いた重度障がい者視線判定への挑戦」

田村宏樹 (工学部教授)

重度な肢体不自由者がコミュニケーションをとるための工学的な手法に関して研究をしてきました。メガネ感覚で手軽に装着でき、無線で配線等が邪魔にならなく、多様なアプリケーションを選択できるようになれば、生活の質は改善できると考え、イメージ図を実現するようなことが実現できればと取り組んできました。

現実的には難しい面も多く、装着しない視線入力装置が現場でも取り入れやすいと考えています。本発表では、これまでの取り組みとAI等と組合せた今後の可能性を紹介したいと思います。



## 「パラスポーツの現状と展望

### ～パラスポーツの常識を超えていく～

荒川英樹 (附属病院教授)

新型コロナウイルス感染症の世界的な猛威によりスポーツは大きな影響を受けました。しかし、2021年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中がスポーツのできる喜びを実感しました。そして、2022年からは国民体育大会や全国障害者スポーツ大会などの国内スポーツの祭典も次々と再開され始め、2027年には「日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ～紡ぐ感動 神話となれ～」の開催も予定されています。本セッションでは、特に地域における障がい者スポーツ(パラスポーツ)の現状、課題を共有し、リハビリテーション医学の視点からパラスポーツの重要性、可能性を紹介したいと思います。

閉会挨拶 片岡 寛章 (理事・副学長)